羽根 直樹 先生のアドバイス コーナー

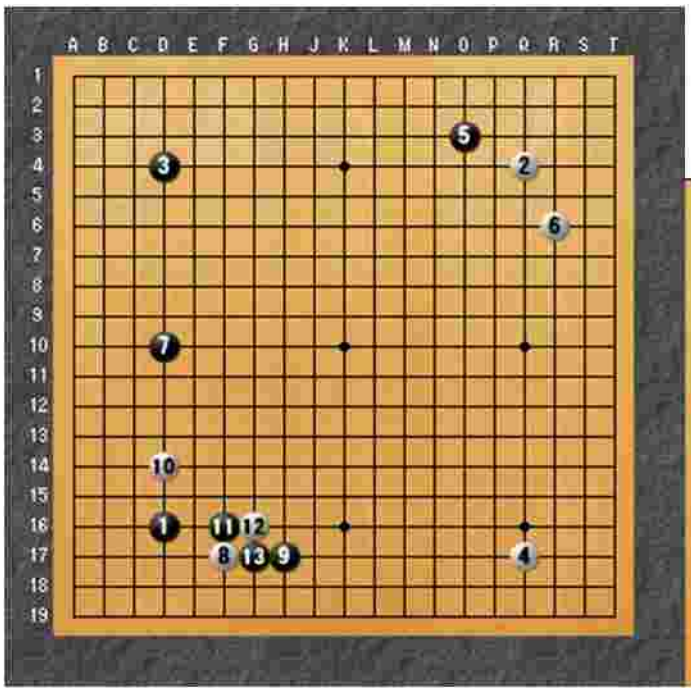
こんにちは。

羽根直樹です。

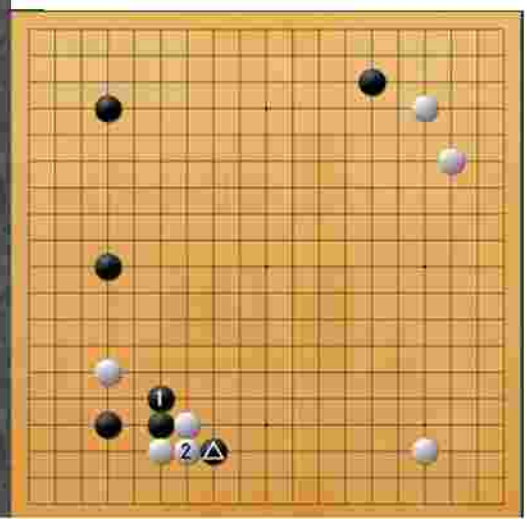
今回は翔の会会員さんの対局を解説してみたいと思います。

定先の一局です。

＜１＞



＜参考図＞

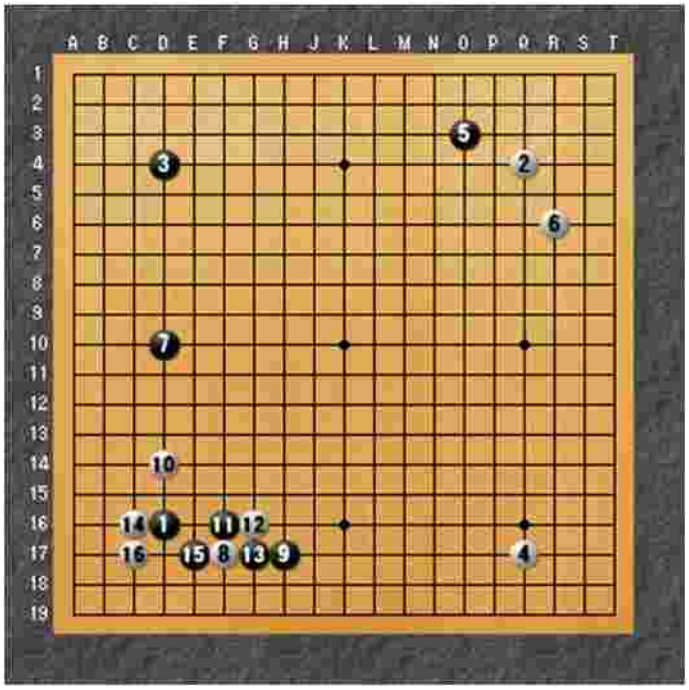


実戦の黒１３の切りは良い手ですね。

＜参考図＞　黒１が安全のような気がするかもしれませんが、

黒△が傷みますので失敗です。

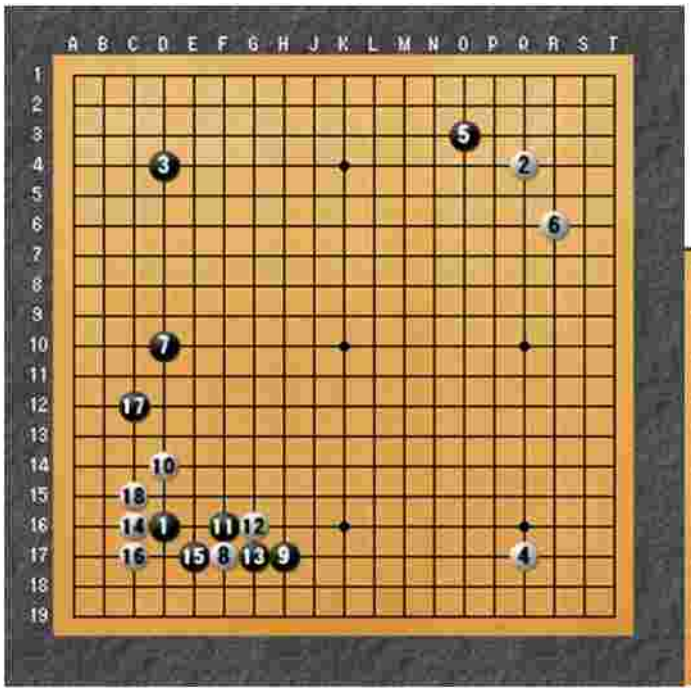
＜２＞



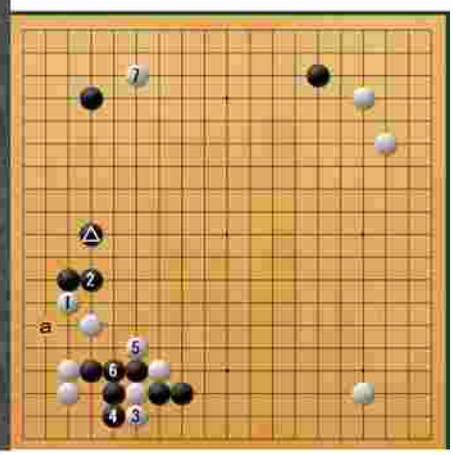
定石通りの進行となりました。

お互いに見事な立ち上がりです。

＜３＞



＜参考図＞



黒の狙いを察知して、守ったことは正解ですが、守り方が丁寧すぎました。

もう少し欲張って効率よく守ることが可能です。

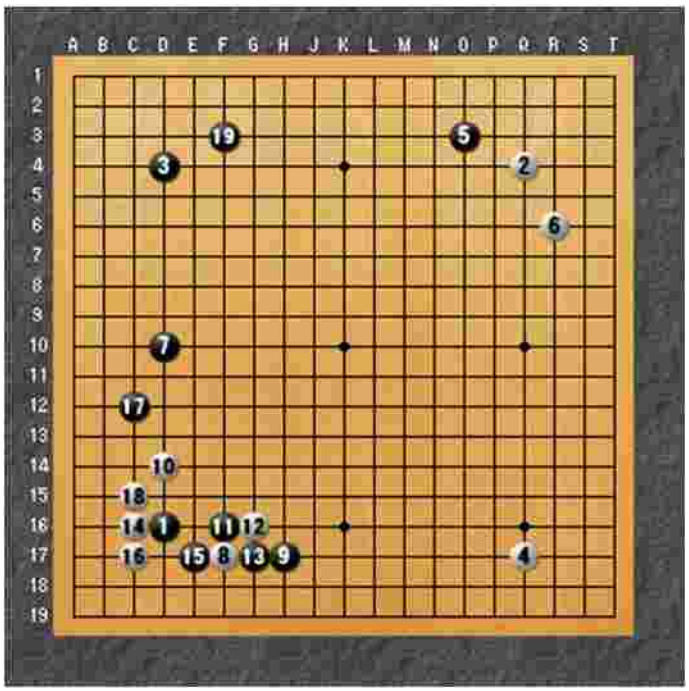
黒△がすでにある場合は、白１が良いですね。

「凝り形」にさせて、先手を取りに行く作戦です。

白３・５を決めて、白７に向かうことが出来ます。

黒△が無い場合は、白ａの守りが本手となります。

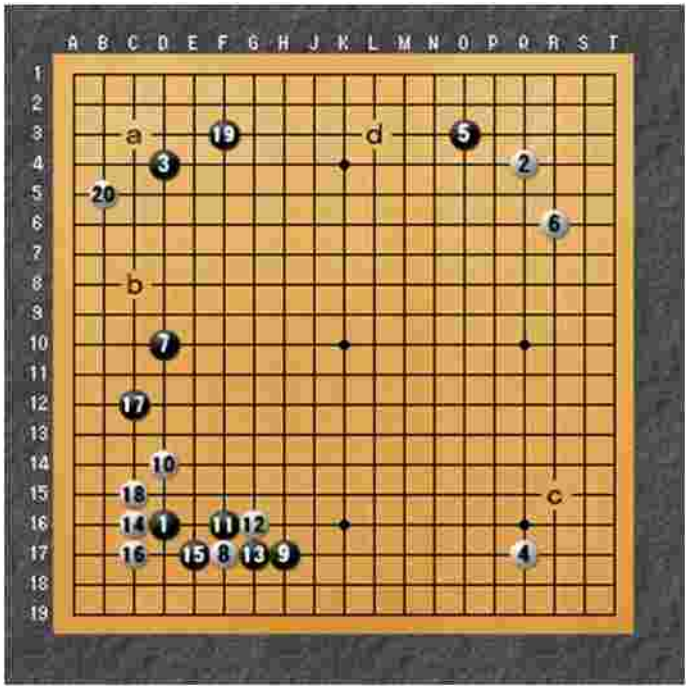
＜４＞



良い手ですね。

石の方向と着点、共に申し分ありません。

＜５＞

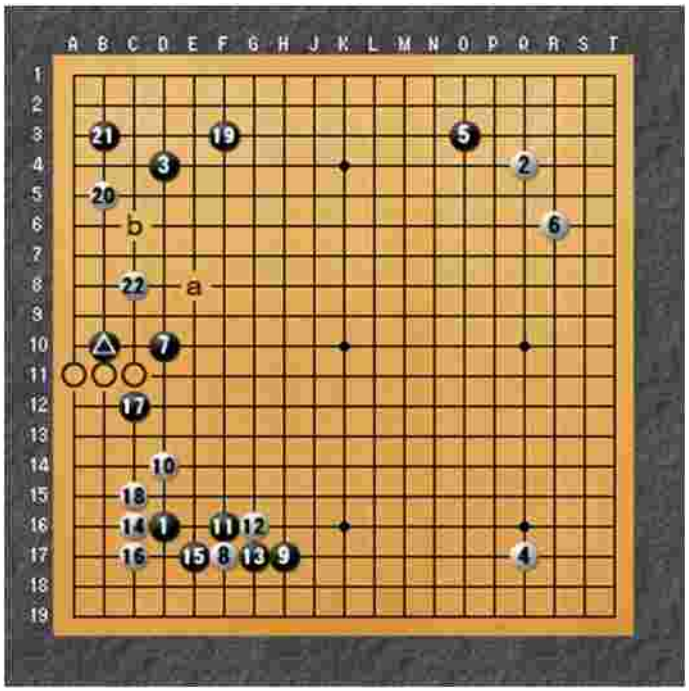


上手い進入の仕方ですね。

白はａとｂを見合いにしています。

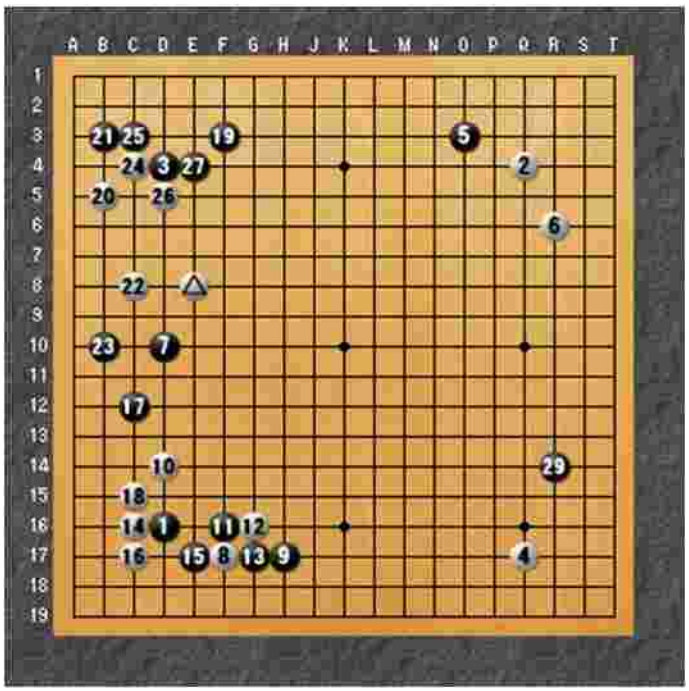
他にはｃやｄなども魅力を感じる大場です。

＜６＞



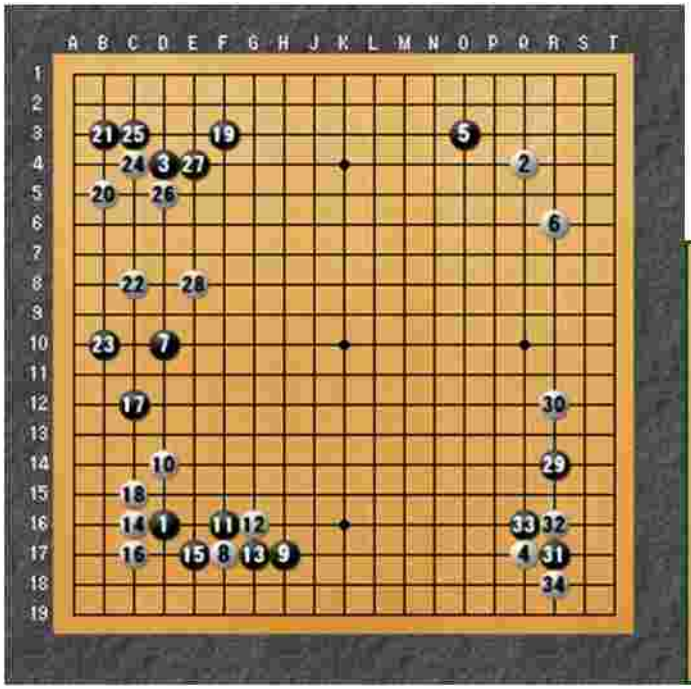
布石は、「価値が高い方向なので、大切にするために打つ」という考え方で進めていくことになります。
黒△が大切にしたいのは、○三つ分のスペースという事になりますが、ちょっと狭いですね。
もう一列分スペースがあれば、とても立派な一手なのですが。
今回は「凝り形」と感じたいところです。

＜７＞

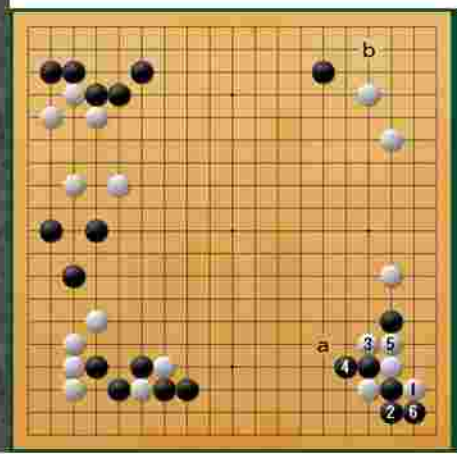


白は不安定な石を△と補強、黒は一段落とみて大場に先行しました。
とても自然な進行です。

＜８＞



＜参考図＞

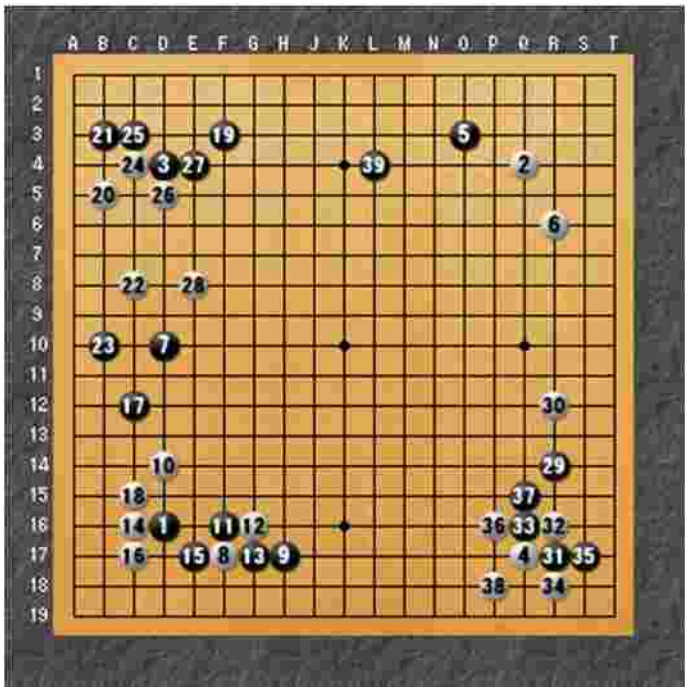


白１が正しいアタリの方向です。

黒６までが定石となります。

続いて白ａやｂが考えられます。

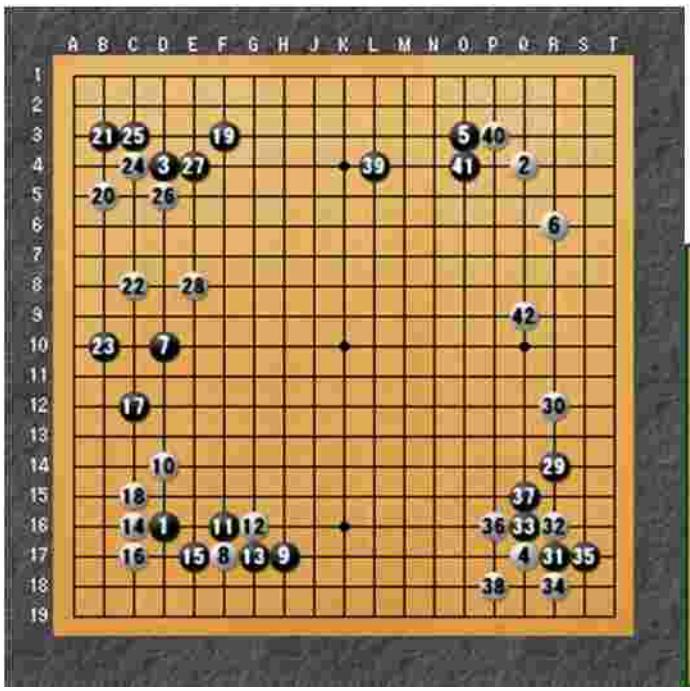
＜９＞



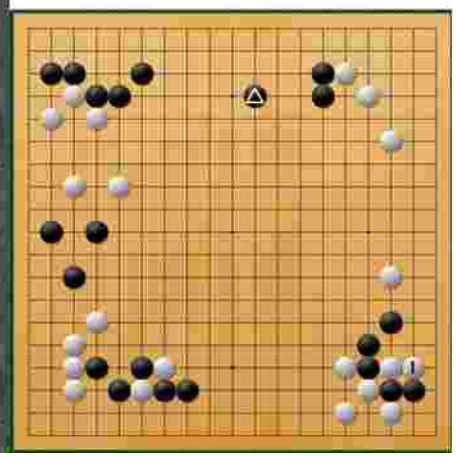
大場に先行しましたね。

とても大きな手ですが、白の立場としては「あれっ」と違和感を感じて欲しい局面です。

＜１０＞



＜参考図＞



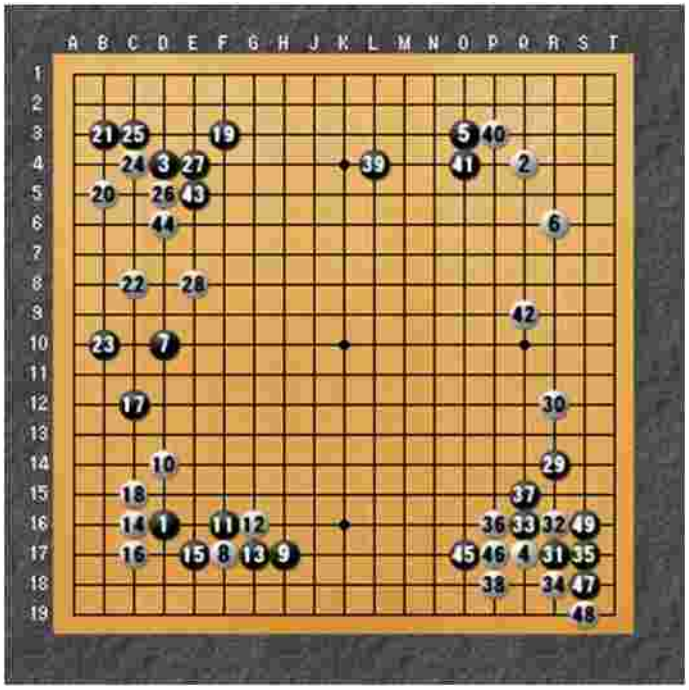
白１がとても気になりますね。

黒２子との攻め合いは白の勝ちとなります。

ここは地だけの事では無く、お互いの根拠に関わる最大の急場。

黒△ではしっかりと守っておく必要がありました。

＜１１＞

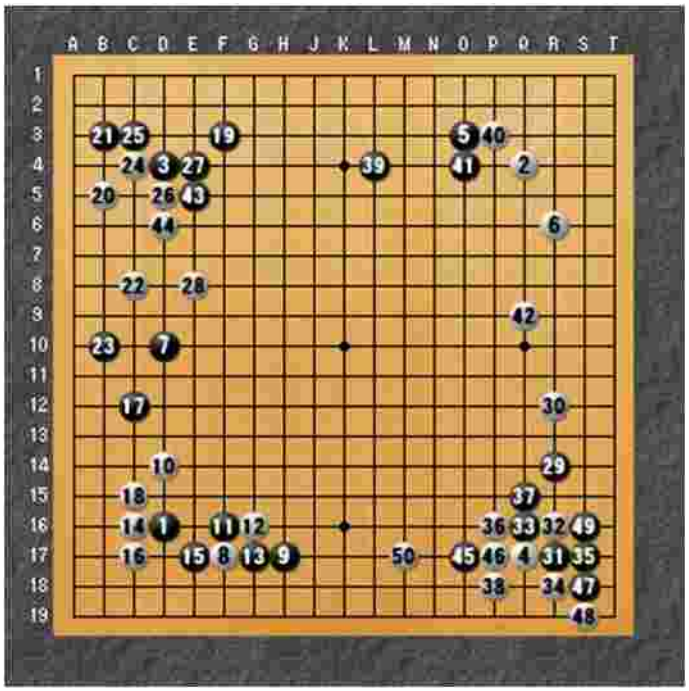


黒が先に気付きましたね。

黒はこの手によって安定しました。

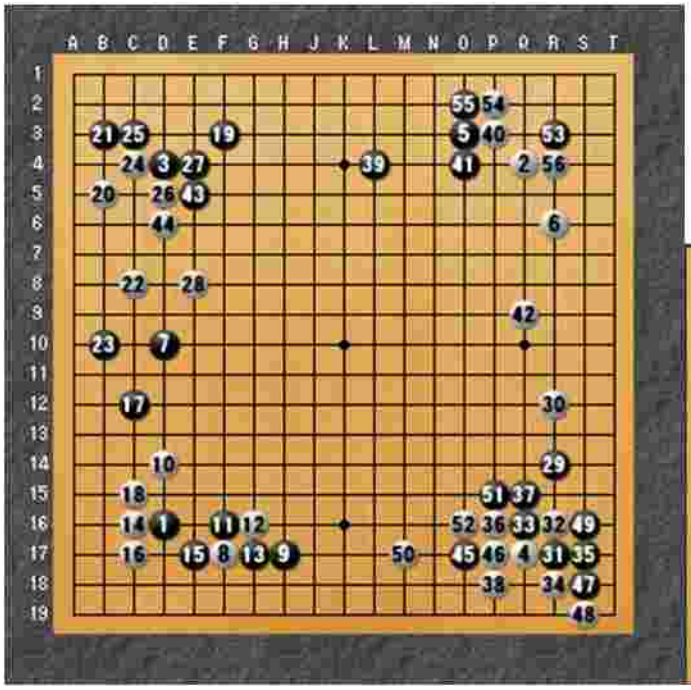
そして白の側が少し不安定になった状況です。

＜１２＞

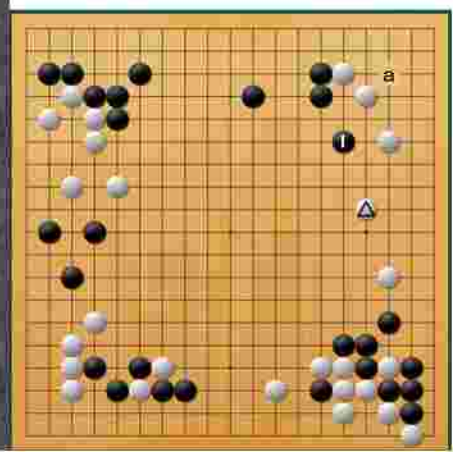


良い手ですね。　しっかりと補強する事が出来ました。

＜１３＞



＜参考図＞

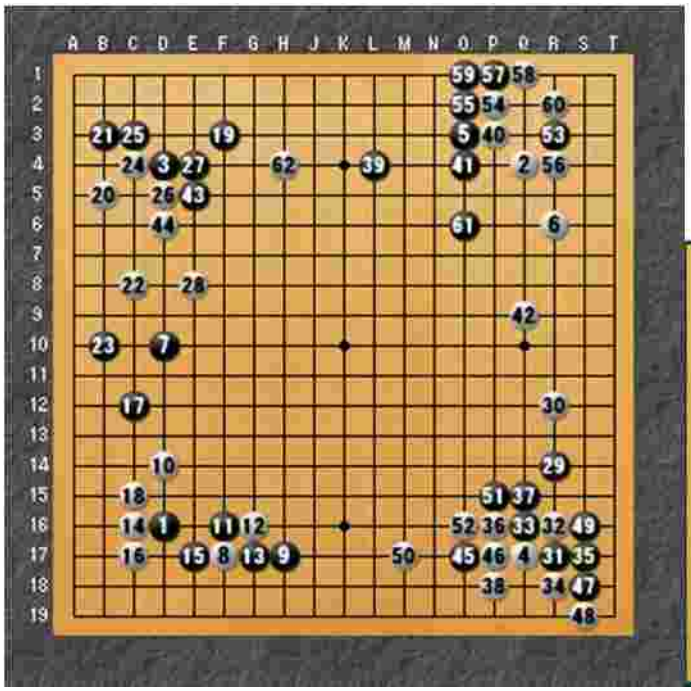


白△の援軍がいますので、いきなりの黒ａはちょっと難しい仕掛けでしたね。

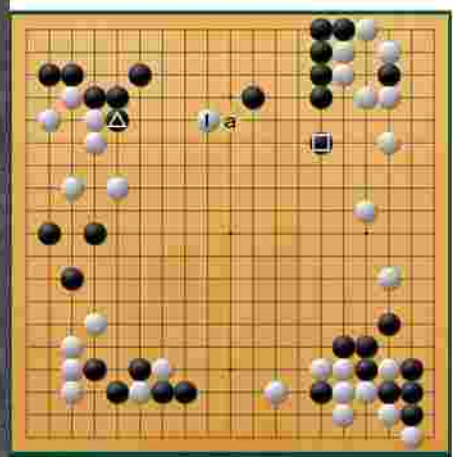
黒１ぐらいで、ぼちぼち狙っていれば穏やかな作戦です。

上辺(黒)と、右辺(白)の接点という意味でも気になる場所です。

＜１４＞



＜参考図＞



実戦は踏み込みましたね。

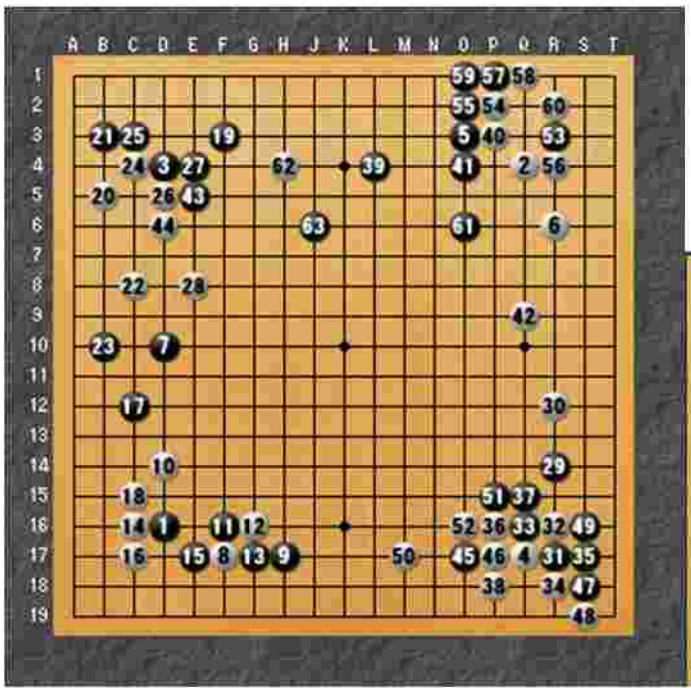
かなり危険な一手です。

黒模様の先端△と□を結んだ線上ならば、比較的安全です。

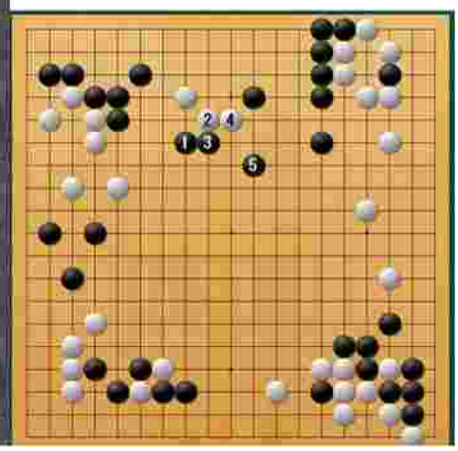
そしてもう一つ、強そうな左側△周辺の黒から離れることも重要です。

今回は、白１もしくは白ａが正解となります。

＜１５＞



＜参考図＞



黒は下から受ける気分にはなりません。

上から攻めたのは大正解です。

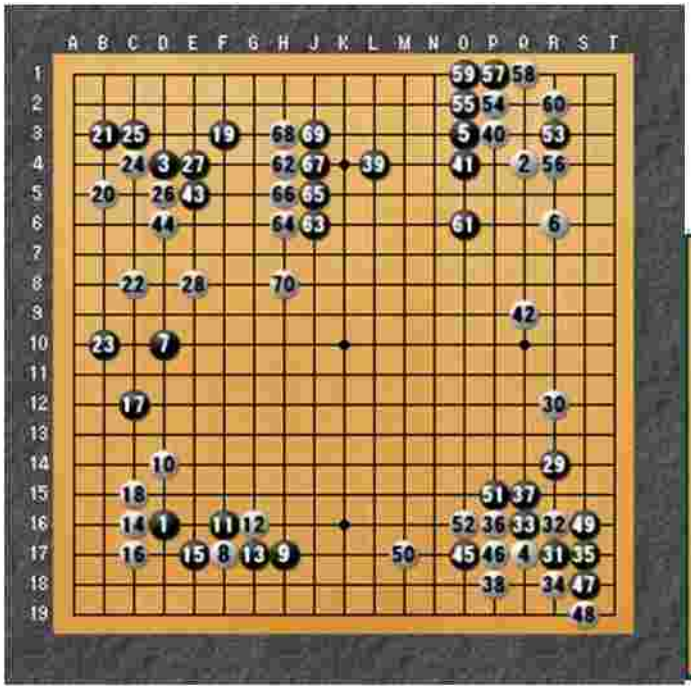
ちなみに、「上」とは碁盤の中央側で、「下」は一線や二線側となります。

そして攻め方としては､厚みである左側に少し空間を空けたのは工夫が感じられます。

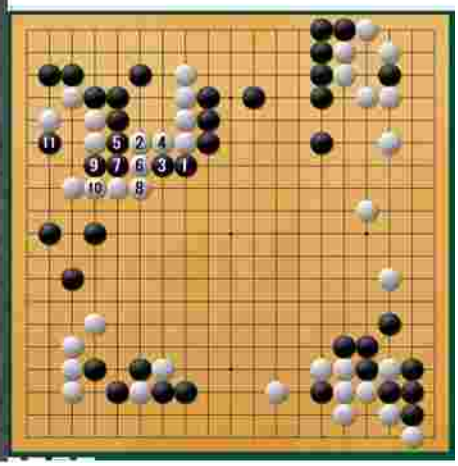
ただ、素直に黒１ボウシもありました。

もし黒５までとなるようでしたら、白は脱出が出来そうもありません。

＜１６＞



＜参考図＞



実戦は、白が「ホッ」と一安心という感じです。

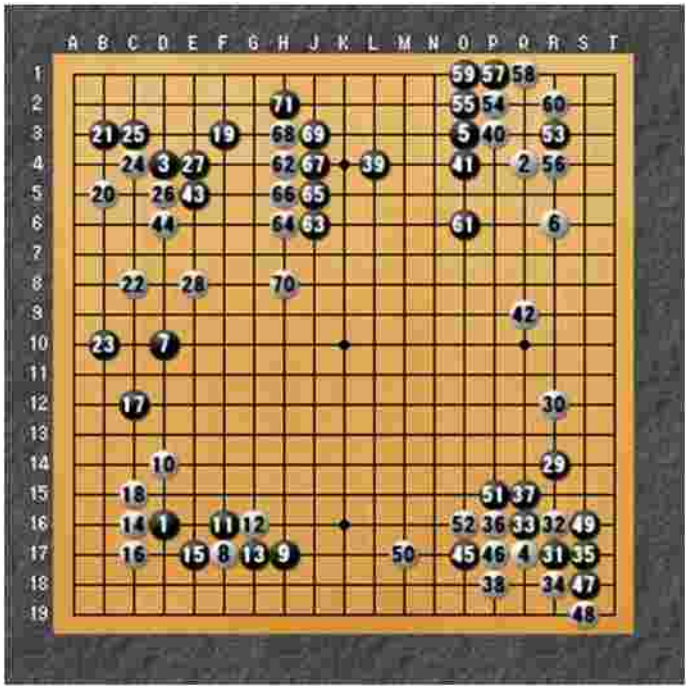
黒としてはまだ攻めを継続したかったですね。

黒１から 11(白２で３は、黒４で危険)のような進行が考えられます。

他には、黒１で６と分断する攻めもありますね。

「黒の勢力圏」という強気な姿勢を見せたい場面でした。

＜１７＞

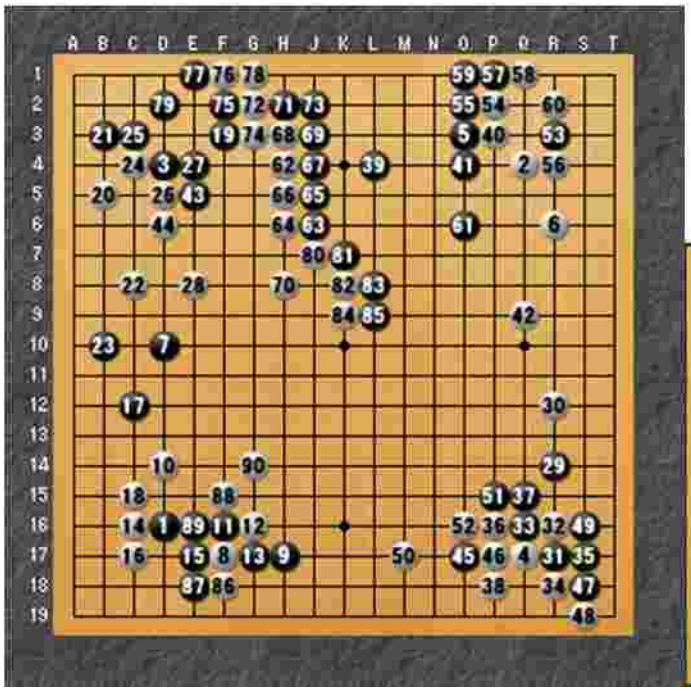


序盤・中盤は、不安定な石の補強や攻めを優先しながら、大場(価値が高いので次の戦場になりそうな場所)に先行するイメージで打ち進めます。

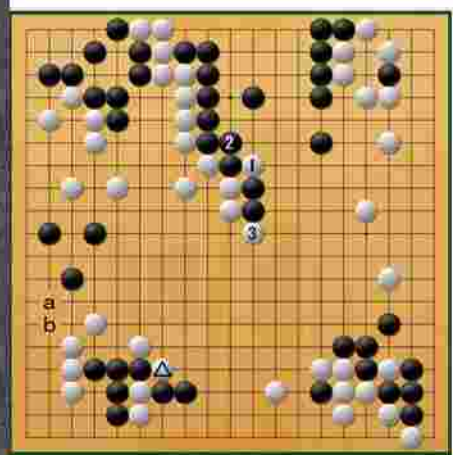
この手は石の強弱にはあまり関係せず、大場とも言えません。

となると「ヨセの手」ということになりますが、まだちょっと早すぎた感じですね。

＜１８＞



＜参考図＞

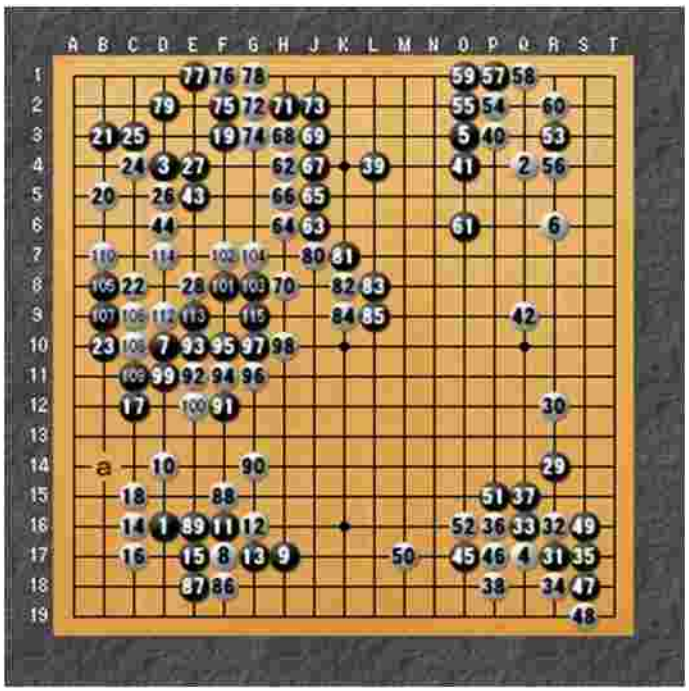


白１から３と、「二目の頭」をまずはハネたいですね。

そして他には、お互いの根拠に関わる白ａ(黒からはｂ)が気になります。

白△の一子は、種石(相手の石を分断している大切な石)ではありませんので、取られても気にする必要はありません。

＜１９＞

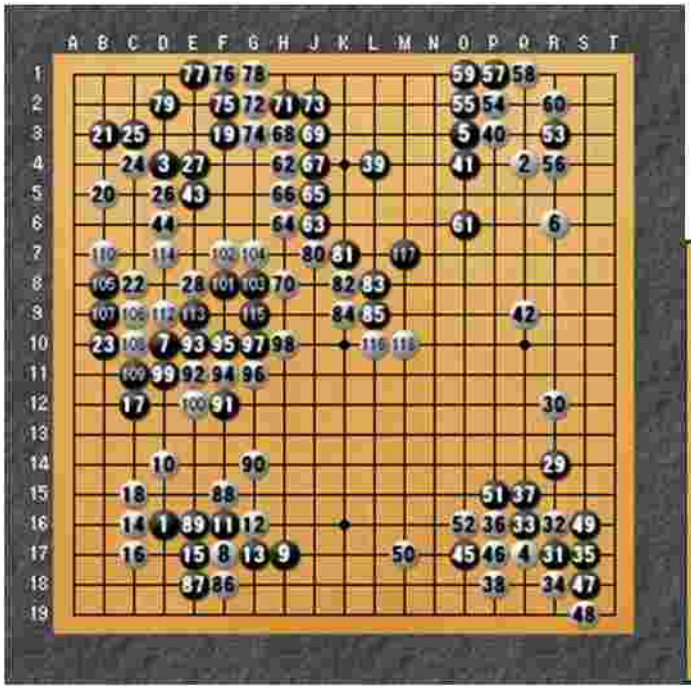


白の攻めと黒のシノギという競り合いでした。

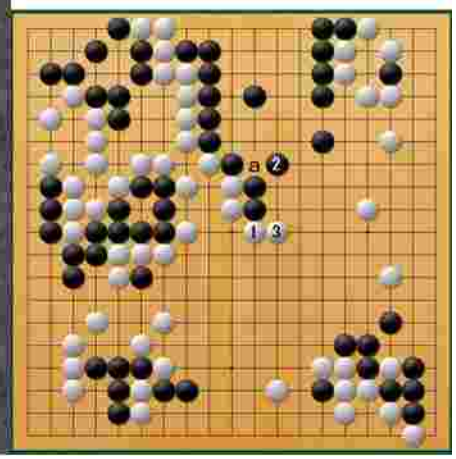
黒としては、「どこにも連絡が出来ないと感じたから、眼形を確保する」という自然な考え方で打てています。

ただ、こんなに苦労をしなくても、黒ａと打てば十分な眼形のスペースが確保出来ていましたね。

＜２０＞

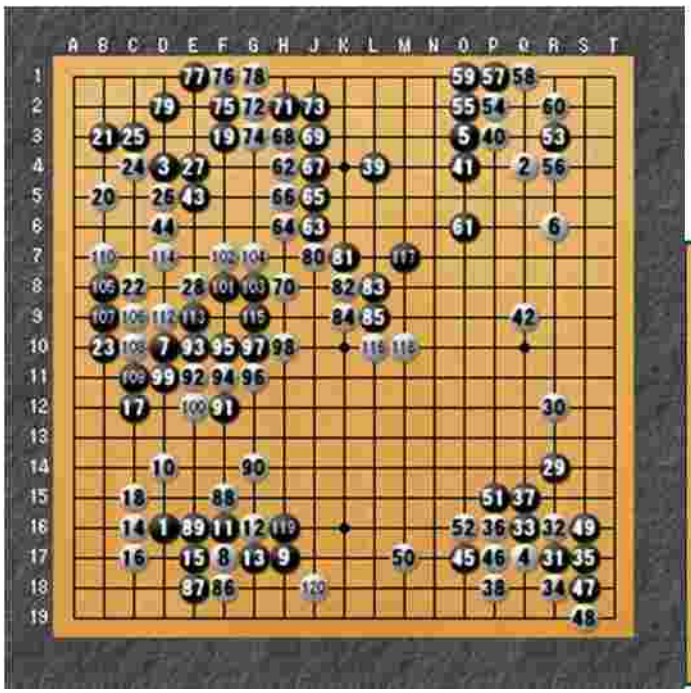


＜参考図＞

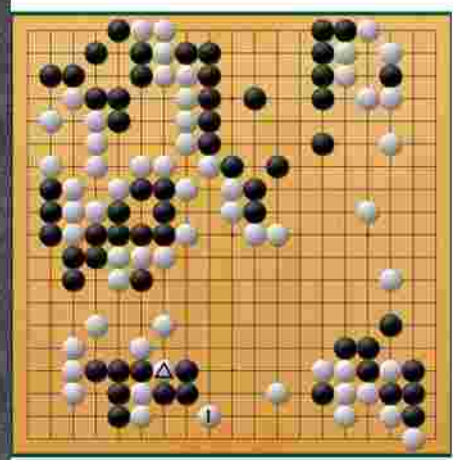


白ａの切りは先手で打っておいた方が良かったですが、それにしても白１、３とは良い感じで打てていますね。

＜２１＞



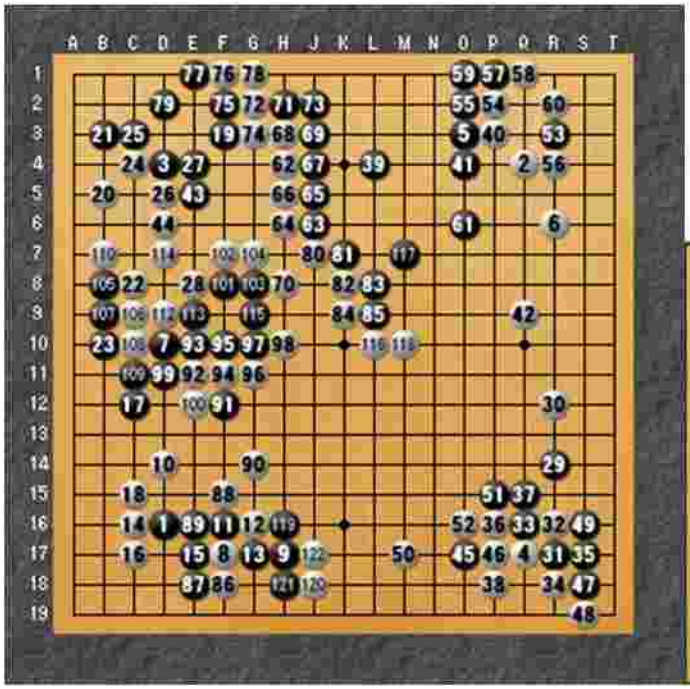
＜参考図＞



良い手ですね。何よりも白△を捨てるという発想が見事でした。

そして黒の眼形を脅かす一手となっています。

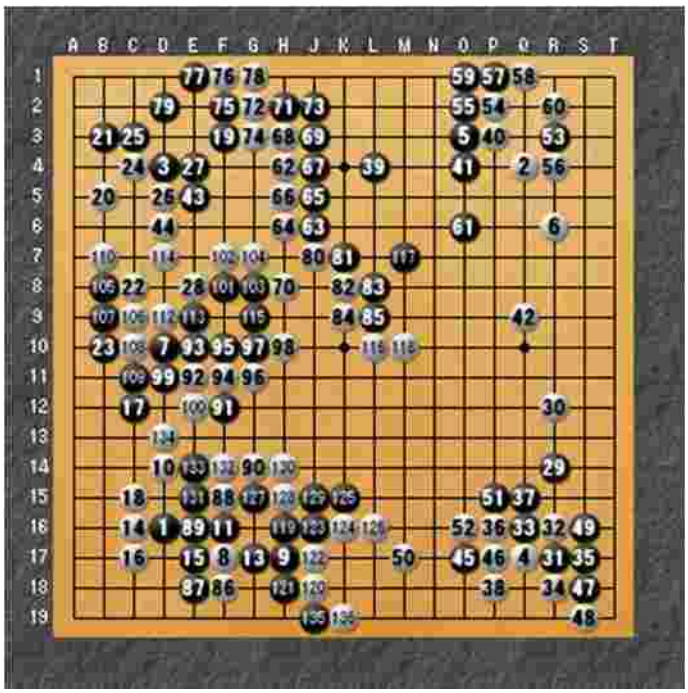
＜２２＞



＜参考図＞

黒△と石を三つ並べて力をためていますので、白１と少し離れるのが良いバランスとなります。

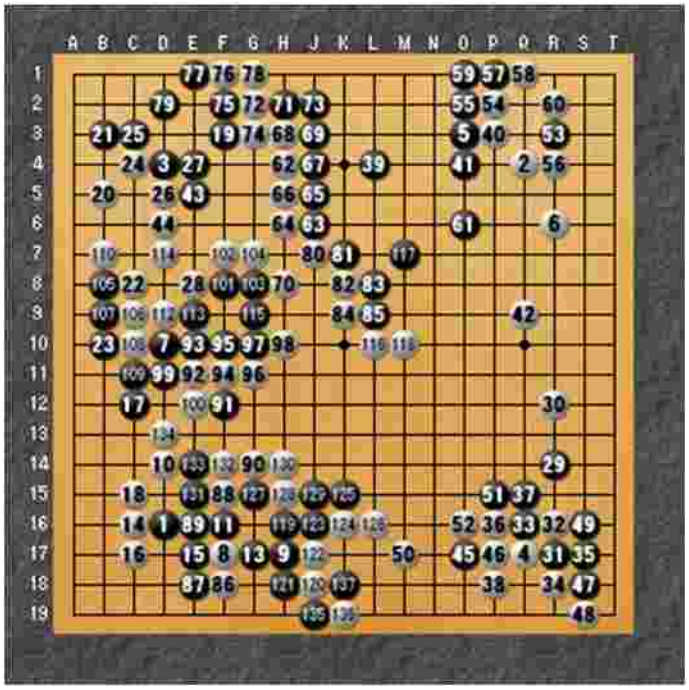
＜２３＞



ちょっと勢いよく打ち過ぎた感じですね。

ちょっと手が止まれば、すぐ弱点に気付く形かと思います。

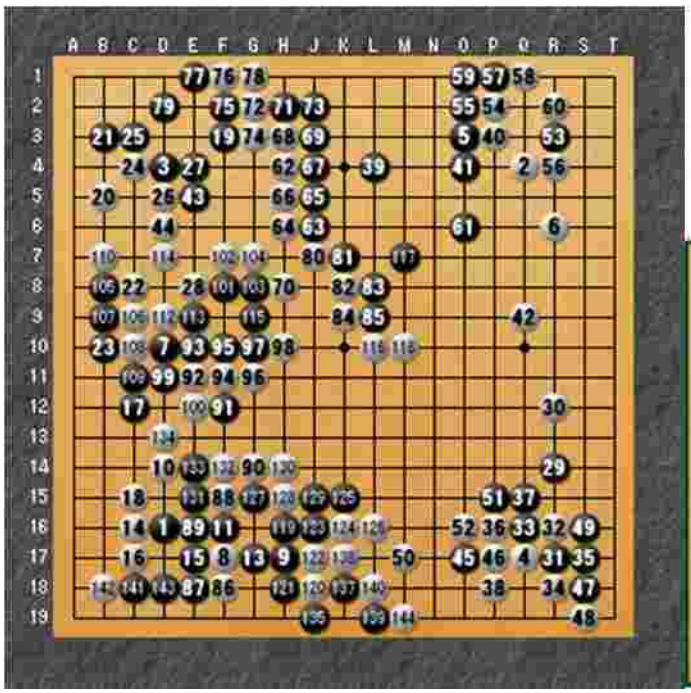
＜２４＞



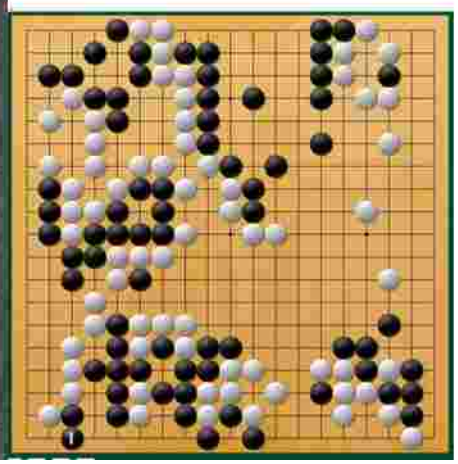
当然だと言われてしまいそうですが、良い手ですね。

相手のミスにしっかりと気付く事も大切です。

＜２５＞



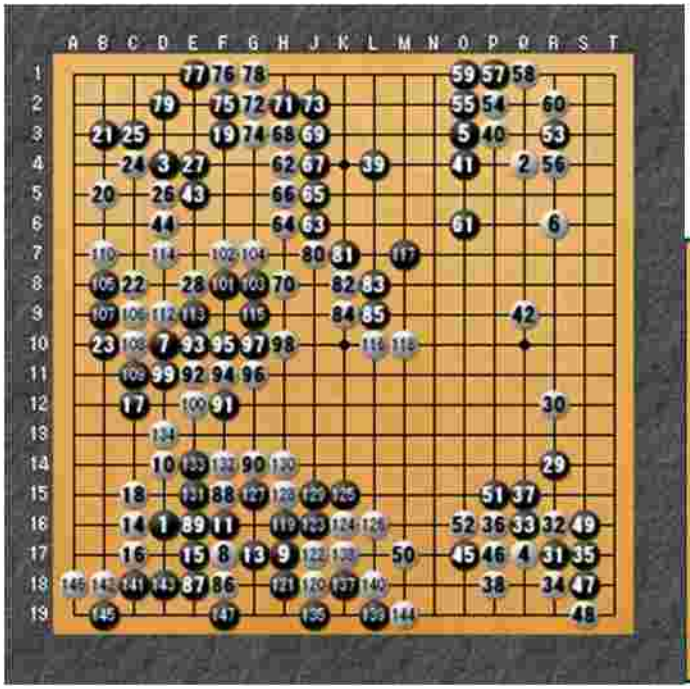
＜参考図＞



黒の生き方のミスに気付けたでしょうか？

黒１のサガリが正解でした。

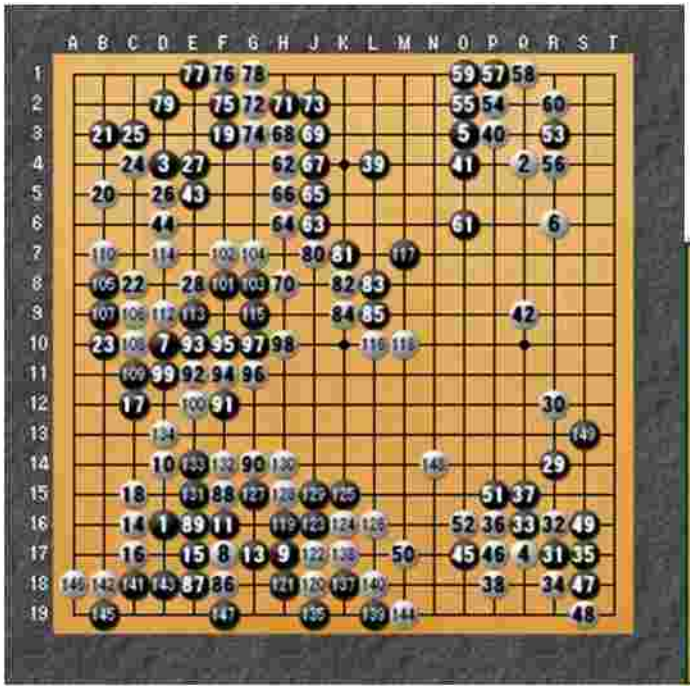
白の立場としては、「あれっ、何か無いかな？」と感じるかどうかが分かれ目です。
何も感じなければ、相手のミスに気付く事は出来ません。
ただ、気付いたからといって、すぐに実行するのでは無く、深呼吸をして状況確認をしましょう。
＜２６＞



＜参考図＞

しっかりと弱点に気付くことが出来ました。
黒が守りを忘れてしまうと、白１から５まで、５目中手で二眼が出来ません。
ただし、黒６以下の中央付近は未知数です。
白△ですぐに仕掛ければ良かったというような、単純な話ではありませんので、白はタイミングを見計らうことになります。

＜２７＞



＜参考図＞

黒のコスミは大きな手でした。

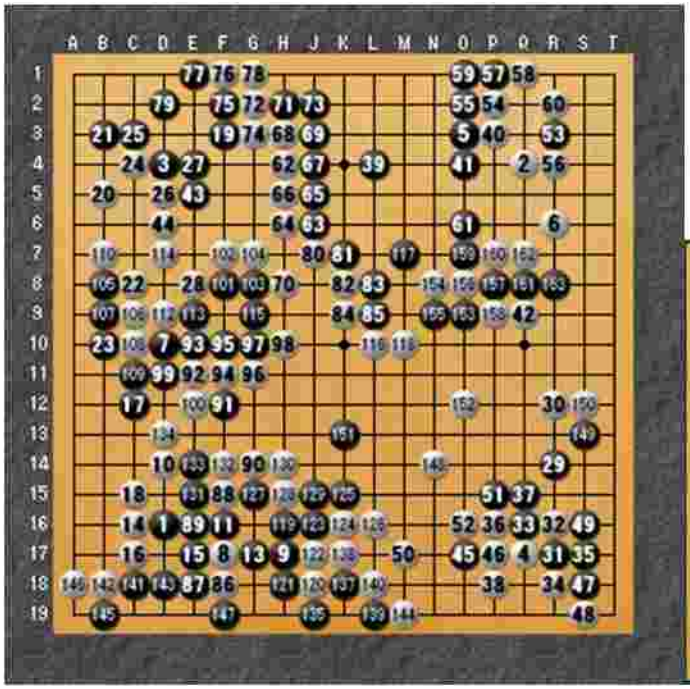
他には黒ａも打ってみたい形ですが､上手くいくか打ち過ぎになるかは五分五分です。

ただ白の立場としては、黒ａを警戒しておく必要がありました。

白ｂと打った手では、白１から３と補強しておくのが良い感じです。

強い石から行動するのでは無く、不安な箇所から行動しましょう。

＜２８＞



＜参考図＞

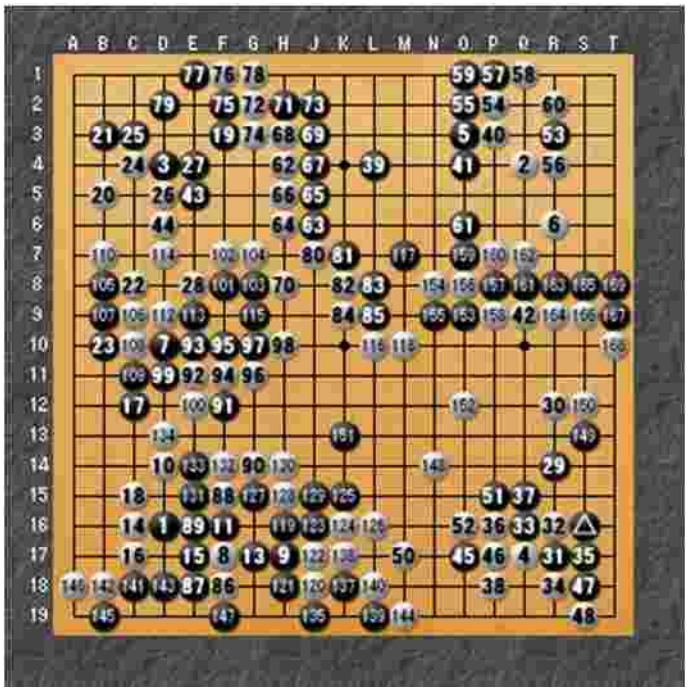
白１から３とは打ち過ぎてしまいましたね。

黒４の時点で、黒の手数は３手以上あります。

白の手数は２手しかありませんので、もう攻め合いには勝てません。

右辺の白地さえ破られないように守っていれば、地合は白有利でした。

＜２９＞



棋譜はここまでとなります。
本局はコミ無しの一局でもあり、現在形勢不明です。
上辺の黒地を荒らして以降、左辺・下辺と白が順調に打ち進めていましたが、最後にちょっと損をしてしまいましたね。
お互いに好手がたくさんあった好局でしたので、ささやかなミスまで指摘してしまいました。
基本的には、△の急場をお互いにしばらく放置してしまった箇所だけ修正して頂ければ十分です。